

## 平成 24 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告

- はじめに .....2
- 平成 24 年度 大学公開講座事業委託実績報告 .....3
- 理科『楽しい化学実験』 .....4
- 国語『読書感想文を書こう』 .....5
- 音楽『みんなで箏をひいてみよう』 .....6
- 図画工作『夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作』 .....7
- 英語『英語であそぼ』 .....8

## はじめに

千葉敬愛短期大学  
学長 伊藤勝博

「夏休み子ども向け公開講座」は、本年度で7年目を迎えました。この公開講座は、佐倉市の「市民公開講座事業（委託）」の一環であり、千葉敬愛短期大学が委嘱をいただいて今日まで実施してきた次第です。

今年度の公開講座のコンセプトは、“地域の子どもたちが有意義な夏休みを設計する上で活用できるもの”にしました。その内容は、【音楽】「みんなで箏を弾いてみよう」 【図画工作】「夏休みの課題（ポスターや風景画等）の制作」 【理科】楽しい化学実験を行おう」 【英語】「英語であそぼう」 【国語】「読書感想文を書こう」の五科目で構成し、制作活動や体験的学習を取り入れたものです。

各講座では、休憩もろくに取らずに黙々と制作に没頭している子、体験的活動に夢中になって全身で楽しんでいる子などを目の当たりにすることができました。その姿から、子どもたちの目標に向かう集中力と向上心の旺盛さに感心しました。

近年の子どもの行動傾向は、失敗を嫌い挑戦を避けると言われています。上手くできなくても、いくらでもリカバリーできるのが少年期なのですから、内に秘めたパワーを発散するくらいの意気込みで参加することが大事であると、私は考えます。今回幾ばくの不安を抱きながらも、新しいことへのチャレンジ精神をもって参加した子どもたちに、称賛の拍手を送ります。

活動中の子どもたちは、どの子もきらきらと個々の輝きを見せていました。それは磨くほどに輝きを増すダイヤモンドの原石と同じです。私たちはそんな原石のかすかな輝きを見落とすことなく、気づき、磨くことに専念してまいりました。

このような貴重な機会を提供してくださいました佐倉市教育委員会並びに関係者の皆様に対しまして、感謝と敬意を表します。

今年も子どもたちや保護者の皆様から、「去年も来たんだよ」「兄弟で夏休みのスケジュールに入れているんです」などのコメントを頂きました。これを励みとして、今後一層、本学が備えている専門的知識・技能等を、地域の教育・保育に生かしてまいる所存です。これまでと同様に、「地域中核のコミュニティカレッジ」を目指す私ども千葉敬愛短期大学に、ご理解とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 平成 24 年度 大学公開講座事業委託実績報告

### 1. 趣旨

大学公開講座委託事業は、佐倉市との委託契約により、高等教育機関の持つ機能を生かした講座を展開し、広く市民に対し生涯学習を通じ、より豊かに生きるための学習支援を行うことを目的に実施した。

### 2. 内容

千葉敬愛短期大学教授陣の音楽や国語、理科など小学校科目の専門的な知識を活かし、子どもを対象とした体験的な活動の公開講座を実施した。

1. テーマ 「夏休み子ども向け公開講座」
2. 期日 平成 24 年 8 月 20 日（月曜日）～8 月 24 日（金曜日）  
計 5 日間 9 時 00 分～12 時 00 分
3. 会場 千葉敬愛短期大学（佐倉市山王 1-9）
4. 対象 小学生（3～6 年生）

講座日	講座内容	講師	参加者人数
平成 24 年 8 月 20 日（月曜日）	【理科】 楽しい化学実験	千葉敬愛短期大学 初等教育科 専任講師 林 孝憲	27 名
平成 24 年 8 月 21 日（火曜日）	【国語】 読書感想文を書こう	千葉敬愛短期大学 初等教育科 専任講師 鈴木 健一	11 名
平成 24 年 8 月 22 日（水曜日）	【音楽】 みんなで箏を弾いてみよう	千葉敬愛短期大学 初等教育科 非常勤講師 鈴木 由美子	22 名
平成 24 年 8 月 23 日（木曜日）	【図画工作】 夏休みの課題 (ポスターや風景画等) の製作	千葉敬愛短期大学 初等教育科 専任講師 久保木 健夫	23 名
平成 24 年 8 月 24 日（金曜日）	【英語】 英語であそぼ	千葉敬愛短期大学 初等教育科 非常勤講師 米川 聖美	17 名

### 3. 受講料

無料

## 理科『楽しい化学実験』

講師：林 孝憲 先生

講座日：平成 24 年 8 月 20 日（月曜日）

参加人数：27 名

### 講座内容について

中学校レベルの化学実験を行った。

1. むらさきキャベツの色素を指示薬として、身近にある物質の酸・アルカリの性質を調べた。
2. 塩、砂糖、でんぷんを燃焼したとき、どのような反応が起こるか調べた。
3. アルコールを蒸留し、温度によって何が抽出できるか調べた。

### 講座を実施して

子どもたちは、実験の結果を予備知識としてある程度知っているようであったが、実験することに非常に関心を示していた。実験が科学への好奇心をはぐくむ大きな要素となることを実感した。

子どもたちはマッチをするといった経験がないようであった。実験を通して、手作業など日常生活で身につけるべき事柄を実践できたことは意外な収穫であった。



## 国語『読書感想文を書こう』

講師：鈴木 健一 先生

講座日：平成 24 年 8 月 21 日（火曜日）

参加人数：11 名

### 講座内容について

【前半】全体指導を講義形式で行った。

- 1 「感想」とはどのようなものか
- 2 感想を書くにあたって～心構え～
- 3 感想文の大事な要素
- 4 感想文をどう書くか

について、子どもたちと意見を交わしながら、要点を整理した。

【後半】個人作業を中心にし、個別に支援を加えた。

初めに座席の隣同士で持参した本を見せ合い、その本について知りたいことを複数書いて、相手に手渡すという作業から行った。次に、台紙の枠内に書名と選んだわけを記入させて、個別に点検し過不足なく書けている場合は、「だれが（主人公や登場人物）出てくるの」という質問用紙を配り、記入させて点検した。点検後に次の用紙を渡す活動を 2 度繰り返し、用紙は台紙に貼らせた。

### 講座を実施して

与えられた時間では、書き上げるところまではいかない。それなら、自分で書けるところまで持って行ってやろうという趣旨で題材と構成の段階までを指導した。少人数だったので、個別に対応することができ、各人の思いや考えに沿って指導できた。

感想文の要素やその内容、書くうえでの手順や留意点に改めて気づいてもらえたと思う。また、こうすれば書けるんだという自信を持ってもらえたとも考えている。



## 音楽『みんなで箏をひいてみよう』

講師：鈴木 由美子 先生

講座日：平成 24 年 8 月 22 日（水曜日）

参加人数：22 名

### 講座内容について

和楽器を代表する「箏」。楽器の歴史、構造、各部名称、よくされてしまう誤解「箏と琴」の違いなどを授業形式で説明した後、2 人に対し一面の箏を用意し、「箏を弾く」ことを体験した。

やはり、楽器は音を出してこそ「体験」と考え、前半 40 分を・挨拶・自己紹介（各自自分の小学校、学年、名前をみんなの前で言う。）・授業の進め方・楽器の説明にあて、説明しながら、少しずつ楽器に触れさせた。

途中休憩をはさみ、後半 45 分を箏の演奏体験に当てた。11 時 35 分より、「ミニ・コンサート」として、保護者に向けて、当日学んだ曲を披露した。

### 講座を実施して

昨年度に比べ、箏に対し、少し知っている児童、弾いたことのある児童が半数近くいたため、前半の説明時から箏に触れさせ、レジュメは用意したが、それに沿って進めるよりも楽器に触れながらの説明の方がより有効であると判断した。

その体験場所は、主に、小学校の特別授業に外部の先生がいらして行うものが多く、ただ話を聞いて演奏を聴くだけのもの、クラスに二面ほどの楽器を順番に弾くというものが多かった。

用意できた箏の面数、爪の数も踏まえ、この講座では体験を重要視して進めた。邦楽器を体験する場が増えたことは、喜ばしく有り難い事と思う。

昨年度、この講座を受講した児童（現在 5 年生と 6 年生）が、再度受講を希望し出席してくれたことは、大変嬉しく感じられた。始め緊張した表情だった児童たちが、講座終了後、「もっと触りたい。」と言いながら、満面の笑みで帰っていったことは、大変印象的であった。



## 図画工作『夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作』

講師：久保木 健夫 先生

講座日：平成 24 年 8 月 23 日（木曜日）

参加人数：23 名

### 講座内容について

佐倉市内の各小学校で出題される夏休みの課題（図画工作科のポスター製作）を、本講座で実施した。例年、参加児童が事前にテーマを決め、必要な描画材料や資料を持参し、可能であればデッサンを描いてくることとしている。そして、本講座ではイメージや構図等、参加児童の発想や構想段階を共に考え、製作し、時間が足りなければ、自宅で仕上げる形をとっている。

今年度は、本講座に本学学生 2 名がアシスタントとして参加したこと、参加した保護者から本講座の時間内で作品を完成させて欲しいという希望が出たこと、の 2 点が、例年と異なる点であった。

参加児童は、各自の考えに基づき、試行錯誤しながら、楽しく集中して製作することができていた。

### 講座を実施して

今回は本学の学生が参加した。本来、教員志望なので、本講座に参加し、子どもたちと直に関わる機会に恵まれたこと自体が、よい学びや刺激となり、自分自身を見つめ直す機会にも繋がった様子

だった。参加した児童や保護者も、学生の存在には好感を覚え、全体的にはプラスとして働いていたように筆者は感じている。

また、今年度は、講座の時間内に作品の完成を希望する保護者が多かった。希望者は全員、終了後も残って完成するまで製作した。保護者の意向や期待は当然とも考えられるが、初めて出会った児童のイメージを汲み取り、着彩も含めて、計 3 時間で全て完成させることを考えるのは、実は少し難しい。実際、最後まで残って完成させた児童は、一生懸命に取り組んでいたが、午後 2 時までかかっている。最後までゆとりを持って、全員が完成することを目指すなら、計 6 時間程は必要かもしれない。反面、あらかじめデッサンを描いてきた児童の中には、終了 40 分前には完成してしまっていた者も 1~2 名存在した。作品製作は実技なので、取り組む児童の持つイメージやタイプによって、多少の個人差が現れることもある。



## 英語『英語であそぼ』

講師：米川 聖美 先生

講座日：平成 24 年 8 月 24 日（金曜日）

参加人数：17 名

### 講座内容について

小学生を対象とする英語学習においては、文字というツールに頼らず、コミュニケーションの基本である聴く力や発話する力を最大限に発揮させることが重要であると考えます。そのためゲームや劇を通して、他者とのコミュニケーションの学習に重点を置き、今回の大きなテーマと位置づけました。

また今回は、単に英語を学ぶだけでなく、グループワークに取り組み、共に達成感を味わう喜びを通して、これらの目的を達成することを意図しました。

### 講座を実施して

まず「間違えても恥ずかしいことではない」ということを十分に理解させた上で、簡単な自己紹介を学習させた後、「自己紹介ゲーム」として、お互いにコミュニケーションを取ることが「楽しい」という感覚を味わってもらいました。そして様々なゲームや歌を通し、抵抗感のない形で英語に親しんでももらいました。そして最後に本日の集大成として、全員で『ブレーメンの音楽隊』（英語脚本：米川聖美）の英語劇に取り組み、全員参加のロールプレイングにより楽しみながら英会話を体得することができました。特にお面等の小物や歌の準備は、どうしても尻込みになりがち子ども達に思わず夢中にさせる重要なコンテンツであることを再確認いたしました。

